

高知県

研究協力校（課程又は障害種）

- ・ 高知県立高知江の口養護学校（病弱）
- ・ 高知県立高知ろう学校（聴覚）
- ・ 高知県立日高養護学校（知的）

研究の成果

観点Ⅰ：

各モデル事業内、及び近隣自治体間における概念（用語）の共通理解・合意形成

Ⅰ. 3障害種における「主体的・対話的で深い学び」

「主体的・対話的で深い学び」の実現について、障害のある児童生徒にとっては、その捉えや、何をねらうのか、どういった方法で授業を展開するのかなどについて、障害種別ごとの特性などを踏まえたものとなる必要があり、特別支援学校はもとより、地域の小・中学校等における障害のある児童生徒の指導、支援においても課題となっているところである。そこで、本事業を活用して、特に先導的な実践が必要と考える聴覚障害、知的障害、病弱の3障害種の特別支援学校において「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた実践研究を県の指定事業として実施し、その成果を広く普及させるとともに、県内では教育課程研究集会で協議し更なる充実をはかることや、特別支援学校の地域支援などにおいて活用していく。

本事業初年度である平成30年度は、各指定校において「主体的・対話的で深い学び」について教員の共通理解を深め、障害の特性などを踏まえた「主体的・対話的で深い学び」をどのように捉えるのかを整理した。そのうえで、児童生徒の学びの姿や授業分析の視点を教員が共通して捉えることができるように、取り組んだ。

観点 2 :

教育課程・個別の指導計画の実施状況とその評価

2-1. 「主体的・対話的で深い学び方シート(試案)」(高知県立高知江の口養護学校)

病弱教育における「主体的・対話的で深い学び方シート(試案)」を作成し、授業改善に取り組んだ(資料1)。若年教員を中心としたワーキンググループで作成した素案を基に全体で協議し、児童生徒の実態を基に「主体的・対話的で深い学び」と考えられる学び方を項目化している。このシートによって、教員が授業を組み立てるうえで「主体的・対話的で深い学び方」ができる授業になっているかを確認することができ、指導案を作成する際に用いられる。

項目	具体的な案(参考例)
①授業を受ける準備が整っている	授業に出席している
②自ら気づいて行動する	できる活動を選んで参加しようとしている 役割を見つける 自己選択・自己決定している 必要なことをメモする
③疑問をもったり、課題発見をしたりする	学習事項に疑問や考えをもって取り組む
④諦めず根気よく困難な課題にも挑戦しようとしている	
⑤授業に興味、関心を示している	
⑥授業に見通しをもつ	
⑦必要なことや、求められていることを探し出そうとしている	プリントや教科書、インターネットや書籍からキーワードを探している
①発問に対して答えている	質問に対し自分の考えを答えている
②自分の考えを多様な表現で伝えようとしている	本時で分かったことを教員や友だちに伝えている 自分の意見を話すまたは書く
③互いの思いや考えを伝え合い、分かり合おうとしている	教員を介して友だちとのやり取りを広げる 良い点を褒めようとする 他者の意見を聞きながら聞こうとしている
④自分の考えとの相違点を認識する	友だちや教員と話しながら自分の考えと似ているところ、違うところを探す 意見交換をし、友だちの思いに気づく
⑤課題を解決するために他者と関わろうとしている	友だちや教師と協働して課題を解決する
①様々な視点で考えている	ものの見方を広げている
②経緯、情報を活かしている	知っていることや手元にある情報を関連付けている ほかの知識(情報、意見など)から考えている
③他教科の学びを活かしている	
④学んだことを伝える形(発表、音読、作文など)で表現している	
⑤学んだ知識を概念化する	「あー、そういうことだったのか」 習った知識が深まる、気づく
⑥学んだことから新たに課題をみつけている	
⑦振り返って次につなげる	
⑧自分に合ったツールを使ってまとめたり、考えようとしている	
⑨学びの面白さを実感し、次の意欲につなげようとしている	達成感を得たり、子どもが前向きな気持ちを示す
⑩予想したり、仮説を立てたりして思考を深めている	

資料1 主体的・対話的で深い学び方シート

2-2. 学習過程分析表(高知県立日高養護学校)

高等部各学年第1回目の公開授業に向けて「授業チェックシート」を作成し、活用した。その取組状況について外部講師を交え検討した。結果、「授業チェックシート」より、「学習過程分析表」(資料2)で、各授業における学習活動に「主体的・対話的で深い学び」の各要素がどのように含まれているのかを整理し、公開授業の事後協議等において活用していく方が、より効果的であることが確認された。

資料2 主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程分析表(試案)

観点 3：

個のニーズにあわせた指導法、学習環境・支援の工夫

3-1. 手話研修会による手話力の向上（高知県立高知ろう学校）

聴覚障害児童生徒への指導を行ううえで、教員の手話力の向上が望まれる。そこで、年間10回の手話通訳士による実践手話研修会及び校内手話検定を実施した（資料3）。これにより、教員の手話力、コミュニケーション力が向上した。授業内容がより伝わるように手話を活用することができ、児童生徒に合わせた学習環境を整えることができた。また、引き継ぎ業務が円滑に行えるように、こういった形で教員が手話検定を行ってきたかを記録した。さらに、新任者が学びやすいように学校行事等に関する手話をDVDでオンデマンド化し、だれでも活用できるように環境を整えた。



資料3 手話検定の様子

3-2. ICT 機器を使用した「主体的・対話的で深い学び」(高知県立高知江の口養護学校)

これまでの「ユニバーサルデザインによる授業づくり」や「ICT 機器活用の実践研究(デジタル教科書の活用を含む)」で得られた成果を踏まえ、病弱特別支援学校において ICT 機器を有効に活用した「主体的・対話的で深い学び」をどのように捉え、授業を充実させるか検討した。

病弱の児童生徒は、主体的に行うという点でつまづくことが多く、児童生徒が自らやってみようと思う授業づくりには ICT 機器は効果的であった。例えば体育では、ドローンを操作してリレーのコースを回ってみるといったことを行い、児童生徒の興味・関心を引き出して、主体的な授業参加へとつながった(資料4)。ICT 機器の活用は児童生徒の苦手なことを「できるかも」という意識に変化させ、手元の操作で実現できる喜びが「またやってみたい」という主体的な学びへと向かわせていることが推察される。また、ICT 機器の活用によってコミュニケーションの苦手さを軽減した対話的な学び方の授業事例も成果としてあげられた。



資料4 ドローンをを用いた体育の授業

観点4：

障害のない幼児児童生徒・地域社会との交流及び共同学習の設定

4. 地域の小・中学校、高等学校との連携(高知県立日高養護学校)

地域の小・中学校、高等学校との連携をはかり、地域の学校等の特別支援教育を担当する教員の専門性の向上をはかるため、校内研修会の対外的な案内を行ったが、現状では参加者を確保することが難しかった。効果的な周知の在り方や、協議を深めるための研修会の在り方についてもさらなる検討が必要であることがわかった。

観点 5：

多面的な視点からの学習評価・授業評価・学校評価の実施

5. 多面的な視点からの評価

各指定校において、それぞれ外部からの講師を招き、継続的に助言・指導を受けている。また、県立高知江の口養護学校では、公開授業における学び方の観点による授業評価票、及び学習者の振り返りシートによる授業評価、県立高知ろう学校では、アンケートによる自己評価（教員）及び児童生徒アンケート、県立日高養護学校では、公開研究授業に関する「授業チェックシート」及び外部専門家による評価等を行っており、多面的な視点からの学習評価・授業評価・学校評価を実施している。

観点 6：

新学習指導要領に対応した特色ある取組

6. 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

県立高知江の口養護学校では、病気療養による学習空白や学び方の特性、少人数で学ぶことが多い実態を踏まえ、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を実現したときの児童生徒の学びの姿について検討し、病弱教育における「主体的・対話的で深い学び方シート（試案）」にまとめた。県立高知ろう学校では、障害によって聴覚情報が制約されることから、児童生徒にとってわかりやすい表現や方法になるよう、教員の手話力向上やICT機器を活用した授業づくりを中心に、情報伝達の工夫を行った。県立日高養護学校では、「主体的・対話的で深い学び」について各教員が項目を設定する「授業チェックシート」を当初作成していたが評価をする際に難しさがあつた。そこで、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」が授業にどのように盛り込まれているのかを明確にするために、新たに共通した項目で分析する「学習過程分析表」を作成した。

カリキュラム・マネジメントと関連付けながら、各指定校において教員が主体的に自分たちで考えながら作成・改善したツールを公開授業で活用し、現在の取組を捉え直し、課題を整理していくことで「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につながつた。

また、平成30年度の取組については、市町村の小・中学校にも公開している教育課程研究集会や校内研修会の中で報告することで、取組の成果を地域に発信している。